

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品の名称	ハンドフオード改良培地 '栄研'
製品コード	E-MG15
会社名	栄研化学株式会社
本社住所	〒110-8408 東京都台東区台東4-19-9
担当部門住所	〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町野木143番地
担当部門名	信頼性保証統括部
担当部門電話番号	0280-56-2822
緊急連絡電話番号	0280-56-2822
FAX番号	0280-56-2422

推奨用途及び使用上の制限 細菌検査用の培地として使用

2. 危険有害性の要約

GHS分類	分類実施日	メタ重亜硫酸ナトリウム(2.0w/w%含有) H25.8.22、政府向けGHS分類ガイダンス(H25.7版)を使用 GHS改訂4版を使用
物理化学的危険性 健康に対する有害性		区分外 急性毒性(経口) 区分4 眼に対する重篤な損傷性・刺激性 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)
環境に対する有害性 分類実施日		急性毒性:H22.2.19、政府向けGHS分類ガイダンス(H21.3版)を使用 慢性毒性:H18.3.31、GHS分類マニュアル(H18.2.10)を使用 水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(長期間) 区分3

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報	飲み込むと有害 重篤な眼の損傷 呼吸器への刺激のおそれ 水生生物に有害 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き 安全対策	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 取扱後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
応急措置	飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 口をすすぐこと。
保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。
廃棄	内容物／容器を承認された廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
他の危険有害性 国・地域情報	データなし 知見なし

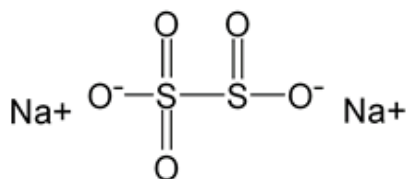
3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
組成・成分

混合製品
クエン酸鉄アンモニウム (0.42w/w% : Feとして)
メタ重亜硫酸ナトリウム (2.0w/w%)

化学名又は一般名
別名
濃度又は濃度範囲
分子式 (分子量)
化学特性 (示性式又は構造式)

メタ重亜硫酸ナトリウム
二亜硫酸ナトリウム
濃度は「組成・成分」参照
Na₂S₂O₅



CAS番号
官報公示整理番号(化審法)
官報公示整理番号(安衛法)

7681-57-4
(1)-502
既存

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、安静にする。症状があるときは、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水で十分に洗う。炎症を生じた時は医師の手当を受ける。
眼に入った場合	直ちに多量の水で15分以上洗い流す。異常があれば医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	水を飲ませ、吐かせる。必要があれば医師の手当てを受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護	知見なし
医師に対する特別な注意事項	知見なし

5. 火災時の措置

消火剤	水、粉末、炭酸ガス、泡
使ってはならない消火剤	該当なし
特有の危険有害性	火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)を放出する可能性がある。
特有の消火方法	火元の燃焼源を絶ち、水や粉末、炭酸ガス等の消火剤を用いる。燃焼時に発生する。ガスや煙等を吸引しないように、消火作業は風上から呼吸保護具を着用して行う。
消火を行う者の保護	ヘルメット、保護めがね、防塵・防毒マスク

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	作業の際には、必要に応じて保護具を着用する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川等に直接流してはいけない。大量の水で希釈する場合には、排水が適切に処理されずに環境へ流出することがないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
回収・中和	飛散したものはできるだけ拭き取って回収し、その後多量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害防止策	データなし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	酸と反応して有毒ガスを発生するので、酸との接触を避ける。
	局所排気・全体換気	屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
	安全取扱い注意事項	容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、また引きずるなどの粗暴な扱いをしない。
	接触回避	吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
	衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

保管 安全な保管条件 技術的対策 保管条件 安全な容器包装材料	混触禁止物資:酸、アルカリ、酸化剤 直射日光を避けて、密栓を行い、室温に保管する。 ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス
--	--

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標) 日本産衛学会(2014年度版) ACGIH(2014年版)	設定なし 設定なし <メタ重亜硫酸ナトリウム> TLV-TWA 5 mg/m ³
設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
保護具 呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	防塵マスク、空気呼吸器 保護手袋 保護眼鏡、側板付き保護眼鏡 保護衣、保護長靴
衛生対策	

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态 形状 色 臭い 臭いのしきい(閾)値 pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 引火点 蒸発速度(酢酸ブチル=1) 燃焼性(固体、気体) 燃焼又は爆発範囲 蒸気圧 蒸気密度 比重(相対密度) 溶解度 n-オクタノール/水分配係数 自然発火温度 分解温度 粘度(粘性率) 粉じん爆発下限濃度 最小発火エネルギー 体積抵抗率(導電率)	粉末 淡黄白色 特異なおいがあるが腐敗臭はない。 データなし 7.6±(調製後) 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし 混合物としてデータなし
--	---

10. 安定性及び反応性

混合物としてデータなし

反応性	<メタ重亜硫酸ナトリウムの安定性及び反応性として> 空気及び湿気にはく露すると徐々に硫酸塩へと酸化される。 加熱により分解し、硫酸ナトリウムを形成する。
化学的安定性	空気中で徐々に酸化されて硫酸ナトリウムになる。
危険有害反応可能性	酸と反応して亜硫酸ガスを発生する。
避けるべき条件	日光、熱、湿気、酸、空気(酸素)
混触危険物質	酸、酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、一酸化炭素、二酸化炭素、硫黄酸化物、酸化ナトリウムなどが生成される。

11. 有害性情報

混合物としてデータなし

<メタ重亜硫酸ナトリウムの有害性情報として>

急性毒性 経口	ラットのLD50値として1,540 mg/kg (SIDS (2001)、(EPA Pesticides (2007))) に基づき区分4とした。なお、他にLD50値として1,131mg/kg (EPA Pesticides (2007))、2,480 mg/kg (SIDS (2001)) がある。
経皮	ラットのLD50値> 2,000 mg/kg (EPA Pesticides (2007)) に基づき、区分外とした。今回の調査で入手したEPA Pesticides (2007) のデータに基づき、区分を見直した。
吸入:ガス	GHSの定義における固体である。
吸入:蒸気	GHSの定義における固体である。
吸入:粉じん及びミスト	GHSの定義における固体である。
皮膚腐食性及び刺激性	データ不足のため分類できない。本物質は、ウサギを用いた試験で刺激性はない (SIDS (2001)、IUCLID (2000))。一方、ヒトにおける十分な情報は認められない。さらに、ACGIH (7th, 2001) の要約には、本物質が皮膚刺激性であることを推奨できる十分なデータはない、と記載されている。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	SIDS (2001) ではウサギを用いた眼刺激性/腐食性試験 (OECD TG 405準拠) において、「刺激性。眼に重篤な損傷の危険性」との結果から、「眼刺激性物質である」と結論している。また、本物質は、EU DSD分類において「Xi: R41」、EU CLP分類において「Eye Dam. 1 H318」に分類されている。以上の情報に基づき区分1とした。旧分類の分類根拠に使用していたデータ「ECETOC TR 66」は、記載が辿れなかった。新しく得られた情報に基づき分類を見直した。

呼吸器感作性・皮膚感作性

呼吸器感作性: データ不足のため分類できない。本物質にばく露された二例のクリーニング店従業員に職業喘息の報告があり、また、本物質を保存料として使用した食用酢を食した67歳の女性に重篤な喘息が生じたとの報告がある (ACGIH (7th, 2001))。しかし、ACGIH (7th, 2001) の要約には、本物質が感作性物質であることを推奨できる十分なデータはない、と記載されている。SIDS (2001) では、ヒトにおいて、掻痒、掻痒を伴う喘息、浮腫、鼻炎、鼻詰まりが報告されているが、それらの免疫学的病因は明らかではないとしている。また、本物質は、呼吸器感作性を誘発しそうにないが、感受性の強いヒトに対しては喘息症状を強めるかもしれない。しかし、広範な使用においては、このような例数は多くないと考えられる (SIDS (2001)) と記載している。

皮膚感作性: データ不足のため分類できない。SIDS (2001) では、非ガイドライン試験でモルモットに対する皮膚感作性の兆候は認められなかったとの記載がある。また、陽性のパッチテストとアレルギー性接触皮膚炎が少数例で観察されているが、広範な使用の観点では、本物質は皮膚感作性物質と考えられていないとの記載がある。

生殖細胞変異原性 発がん性

データなし
データなし
IARC : グループ3 (ヒトに対する発がん性については分類できない)

生殖毒性 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

データなし
ヒトのエアゾール暴露で呼吸器刺激の情報がある。
洗濯労働者および食品摂取者に喘息の報告がある (ACGIH (2001))。

12. 環境影響情報

混合物としてデータなし

<メタ重亜硫酸ナトリウムの環境影響情報として>

生態毒性 水生環境有害性 (急性)

甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50=88.76mg/L (SIDS、2004) から、区分3とした。

水生環境有害性 (長期間)

急性毒性が区分3、生物蓄積性は低いと推定されるものの、水中での挙動は環境条件により異なり予測し難いため、区分3とした。

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

焼却法
廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

汚染容器及び包装

上記方法による処理ができない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、分類実施中の12項の環境影響情報とに、基づく修正の必要がある。

国際規制

国連番号	該当しない
国連品名	該当しない
国連危険有害性クラス	該当しない
副次危険	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない

国内規制	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない
	陸上規制情報	該当しない

特別安全対策 運搬に際しては容器に漏れの無い事を確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に
行う。

緊急時応急措置指針番号 該当しない

15. 適用法令

法規制情報は作成年月日時点に基づいて記載されております。事業場において記載するに当たっては、最新情報を確認してください。

労働安全衛生法

【二亜硫酸ナトリウム】

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)No.412
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)No.412

化審法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	非該当

消防法	非該当
大気汚染防止法	非該当
海洋汚染防止法	非該当
航空法	非該当
船舶安全法	非該当
港則法	非該当
道路法	非該当

16. その他の情報

参考文献

各データ毎に記載した。

SDSは、品質保証書、規格書ではありません。

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、必ずしも十分ではないので注意して取り扱ってください。

また、注意事項は通常の実施を前提としたもので、特殊な取扱いをする場合には、用途・用法に応じた安全対策を施してください。